

2015 年度

## 地球温暖化対策計画書

## 1 指定地球温暖化対策事業者の概要

## (1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	三菱UFJ信託銀行株式会社

## (2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称		三菱UFJ信託銀行 港南ビル							
事業所の所在地		東京都港区港南二丁目9番8号							
事業の業種	分類番号	J62	J_金融業_保険業		銀行業				
	産業分類名	銀行業							
業種等	事業所の種類	主たる用途	事務所						
		建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)		前年度末	37,423.32	m <sup>2</sup>	基準年度	37,423.32	m <sup>2</sup>
		用途別内訳	事務所	前年度末	31,262.10	m <sup>2</sup>	基準年度	31,262.10	m <sup>2</sup>
			情報通信	前年度末	3,034.24	m <sup>2</sup>	基準年度	3,034.24	m <sup>2</sup>
			放送局	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>
			商業	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>
			宿泊	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>
			教育	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>
			医療	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>
			文化	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>
			物流	前年度末		m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>
			駐車場	前年度末	3,126.98	m <sup>2</sup>	基準年度	3,126.98	m <sup>2</sup>
工場その他上記以外	前年度末			m <sup>2</sup>	基準年度		m <sup>2</sup>		
事業の概要		信託銀行業務							
敷地面積							5,658.15	m <sup>2</sup>	



(3) 担当部署

計画の 担当部署	名称	三菱UFJ信託銀行株式会社 業務IT企画部 業務管理グループ		
	連絡先	電話番号	03-5462-2500	
		ファクシミリ番号	03-5462-2500	
		電子メールアドレス	kounan_post@tr.mufg.jp	
公表の 担当部署	名称	三菱UFJ信託銀行株式会社 業務IT企画部 業務管理グループ		
	連絡先	電話番号	03-5462-2500	
		ファクシミリ番号	03-5462-2500	
		電子メールアドレス	kounan_post@tr.mufg.jp	

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページで公表	アドレス :	http://www.tr.mufg.jp/ippan/csr/keikaku.html		
	<input type="checkbox"/> 窓 口 で 閲 覧	閲覧場所 :			
		所在地 :			
		閲覧可能時間			
	<input type="checkbox"/> 冊 子	冊子名 :			
入手方法 :					
<input type="checkbox"/> そ の 他					

(5) 指定年度等

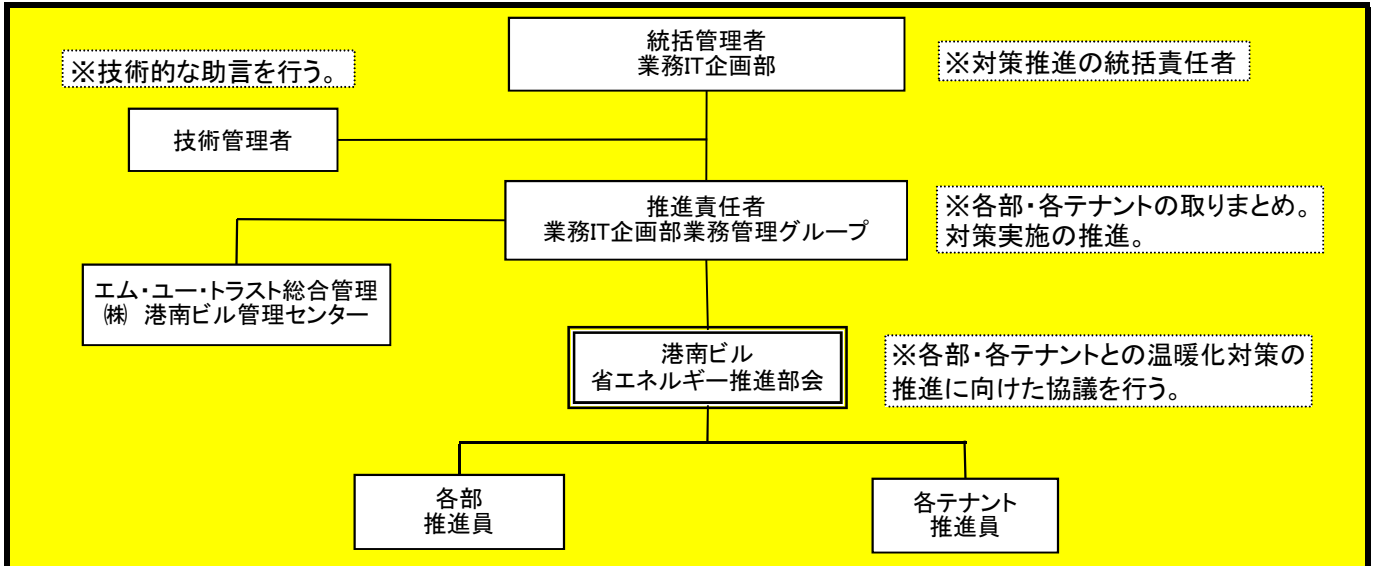
指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の 使用開始年月日	<input checked="" type="radio"/> 平成18年3月31日以前				
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度		<input type="radio"/> 平成18年4月1日 以降		年	月	日

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

当事業所では、環境負荷の低減を目的に、資源循環の取組やエネルギーと資源の有効活用を通じ、環境保全に努めている。  
具体的な対策として、以下の2点に注力している。

1. 設備更改に合わせて高効率設備への切り替え
2. 事業所全体での環境負荷低減運動の推進

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2015 年度から 2019 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	設備更改に合わせて高効率設備への切替と、事業所全体での環境負荷低減運動の継続実施により、総量削減義務の削減を目指す。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当事業所から排出される特定温室効果ガス以外のガス（その他ガス）は、水道の使用及び下水道への排出に伴う二酸化炭素の排出が主体となっている。したがって、節水を行うことで、その他ガスを削減する。具体的には、節水型設備（便器・水栓）の利用と環境負荷低減運動で節水を励行することにより、水道使用量の削減を目指す。また、系統毎に水量計測器を設置し「見える化」を図る。		
削減義務の概要	基準排出量	7,652 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-1
	排出上限量（削減義務期間合計）	31,760 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	17.0%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	設備更改に合わせて高効率設備への切替と、事業所全体での環境負荷低減運動の継続実施により、総量削減義務の削減を目指す。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	節水型設備（便器・水栓）の利用と環境負荷低減運動で節水を励行することにより、水道使用量の削減を目指す。また、系統毎に水量計測器を設置し「見える化」を図る。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
特定温室効果ガス（エネルギー起源CO <sub>2</sub> ）		4,911	4,360	3,757	3,391	3,140
その他ガス	非エネルギー起源二酸化炭素（CO <sub>2</sub> ）					
	メタン（CH <sub>4</sub> ）					
	一酸化二窒素（N <sub>2</sub> O）					
	ハイドロフルオロカーボン（HFC）					
	パーフルオロカーボン（PFC）					
	六ふっ化いおう（SF <sub>6</sub> ）					
上水・下水		29	20	19	18	16
合計		4,940	4,380	3,776	3,409	3,156

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/m<sup>2</sup>・年

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
延べ面積当たり特定温室効果ガス年度排出量	131.2	116.5	100.4	90.6	83.9

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2005年度、2006年度、2007年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

変更年度	年度	変更理由	
変更年度	年度	変更理由	
変更年度	年度	変更理由	

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 1
----------	-------

(4) 削減義務期間

2010 年度から	2014 年度まで
-----------	-----------

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	6,132	6,132	6,132	6,132	6,132	30,660
	削減義務率 (B)	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	
	排出上限量 (C = ΣA-D)						28,210
	削減義務量 (D = Σ(A × B))						2,450
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	4,911	4,360	3,757	3,391	3,140	19,559
	排出削減量 (F = A - E)	1,221	1,772	2,375	2,741	2,992	11,101

(7) 特定温室効果ガスの排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

設備更改に合わせた高効率設備への更改と、事業所全体での環境負荷低減運動の推進（事務室の照度適正化、こまめな消灯、上下階移動の階段利用等）の効果により、特定温室効果ガスの排出量は減少した。

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
		【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】			
1	120200	12_冷凍機の効率管理	熱源更新、運用管理	2010年度～	
2	120500	12_熱搬送設備の運転管理	各階空調機更新、運用管理(室温設定他)	2009年度～	
3	150200	15_照明設備の運用管理	事務室の照度適正化(調光)、機械室人感センサー	2010年度～	
4	140100	14_給湯設備の管理	ヒートポンプ式給湯器の導入	2010年度	
5	160200	16_建物の省エネルギー	遮熱フィルム貼付	2010年度	
6	150300	15_事務用機器等の管理	OA機器の待機電力削減	2009年度～	
7	150200	15_照明設備の運用管理	照明設備の間引き、こまめな消灯	2009年度～	
8	360700	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	全熱交換機更新、運用管理	2013年度～	
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
		【その他ガス削減量の削減の計画及び実施の状況】			
51					
52					
53					
		【排出量取引の計画及び実施の状況】			
61					
62					
63					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

当事業所では、環境負荷の低減の具体策として、設備更改に合わせて高効率設備への切替と事業所全体での環境負荷低減運動を推進しており、実施した対策の内容と評価は以下の通り。

1. 設備更改に合わせた高効率設備への切替

第1計画期間において設備更改計画を策定し、順次計画通り実施している。具体的な対策は以下の通り。

- (1) 熱源（ターボ冷凍機）更新
- (2) 各階空調機更新
- (3) LED・省エネタイプの蛍光灯導入
- (4) 機械室・本番端末室に人感センサー付き照明の導入
- (5) 窓ガラスに遮熱フィルム貼付
- (6) 全熱交換機更新

当初想定以上の効果がでており、今後は運用面を見直して、更に特定温室効果ガスの排出量の削減を図る。

2. 事業所全体での環境負荷低減運動の推進

当事業所のテナントを含め、全在館者を対象に、環境負荷低減に関する意識向上とエネルギー・資源の有効活用を目的として、環境負荷低減運動を実施している。

具体的な活動以下の通り。

- (1) 事務室照度の適正化
- (2) 照明設備の間引きと使用しないフロアのこまめな消灯の励行
- (3) クールビズ・ウォームビズを励行し、夏期・冬期の室内温度を適正化
- (4) PCコンセント引抜き、PC蓋閉じの励行

在館者の意識は徹底されており、当初想定以上の効果が出ている。

以上